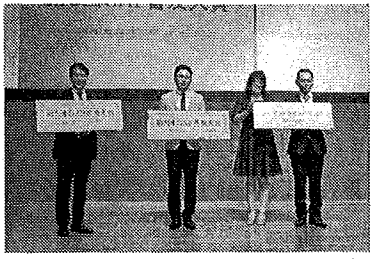


# GAP Japan 2015

## 持続可能な農業推進

日本GAP協会

日本GAP協会（荏林幹太郎代表理事）は10日、都内の東京大学武田ホールにて「日本のGAPの



GAP普及大賞受賞者ら

今がわかる」シンポジウム「GAP Japan 2015」を開催した。開会にあたり荏野宏事務局長は、同協会が展開しているJGAPを紹介し

うえ「政策でもGAPが推進され注目が集まっている。来る東京五輪の食料調達でもGAP採用の可能性があることから、安心安全な食料提供のためにGAP普及を進めていく」と挨拶した。次に、最もGAPの普

及に貢献した取り組み事例を表彰する「第5回GAP普及大賞」の表彰式が行われた。大賞に日本メーカによる農業の持続性を高めるGAPの取り組み」及び、韓国の営農組合法人ノルメインサムジン・朴範鎮（パクボムジン）氏の「韓国における国際的な視点からのGAP普及の取り組み」、特別賞に福島県のまるせ果樹園の「東日本大震

災に伴う風評被害への対策としてのGAPの取り組み」が選ばれ、受賞者に記念パネルや副賞が贈られた。受賞者の記念講演で、日本コカ・コーラ原料調達本部農産原料部長・遠藤誠司氏は、茶系飲料の原料産地にグループ共通の取引産地基準SAGP取得を進めた事例を紹介。生産者と近い血の通った調達活動により、品質向上や説明責任などを実現したと語った。その後「美しい農村づくりに向けたGAPの可能性」をテーマに、EU農業総局農村振興担当課長のレオ・マイヤー氏らによる講演が行われた。